

四日市大学留学生新聞

編集部： 王 金栄 (経営4年) 車 丹丹 (経営3年) ユティ・ヌガラハ (総合3年) 卓 少輝 (経営2年) 顧 幸佳 (経営2年) 凌 青 (経営2年) 朴 慶姫 (メディア2年) アソクタバ (メディア2年)



新年明けましておめでとうございます。今年の干支(えと)は辛卯(かのとう、しんぼう)です。十干の辛(しん、かのと)は、音の「シン」が「新」に繋がることから、植物が枯れて新しい世代が生まれようとする状態を意味するといわれ、一方の十二支の卯(う、ぼう)は、音から兎(うさぎ)が充てられています。本来は「茂(ぼう、しげる)や「冒(ぼう、覆う)で、草木が茂り、地面を覆うようになった状態を表すものであるとされています。

つまり、卯年の今年は、植物が新たに芽吹き、大きく成長して、繁茂する非常に縁起の良い年なのです。

今年は留学生の皆さんも、干支の「卯(うさぎ)」にあやかって、自分の夢や目標に向かって力強く飛び跳ねてください。新たな挑戦と大きな飛躍の一年にしてほしいと思っています。皆さんの活躍に期待しています。

留学生支援センター長 加納 光

新春パーティー NEW YEAR PARTY

「よいしょ、よいしょ」の可愛い声援を受けると、つつい張り切ってしまいました。日本に来て、もう3年になりました。私は日本風のお餅つきを、はじめて見ました。ですから、留学生新春パーティーの二部の餅つき大会になったら、私は、高ぶる心を抑えられませんでした。餅つきが始まると、留学生たちは自分の席を立て、先を争い写真を撮りました。

餅つきが初めての留学生も多く、最初は戸惑いが見られましたが、経験者の助言も受けながら、留学生たちは楽しく搗くことができました。搗きたての餅は、すぐ、あんこ、きなこ、大根おろし、野菜などの味付けをされました。

たくさんの箸が伸びてくる姿を見て、私は食欲をそそられました。みんなで食べました。一人で三つ四つを食べる学生もいました。

新春パーティーを、みんなの楽しげな声や笑い声の中で、過ごしました。

経済学科1年 湯 泉



私費外国人留学生奨学金のお知らせ

12月14日（火）、平成21年度後期並びに平成22年度前期成績優秀者奨学金授与式が行われ、四日市ロータリークラブ会長生川哲也様より、下記の留学生に奨学金が手渡されました。受賞者のみなさん、おめでとうございます。

平成21年度後期成績優秀者

林 亮（経済学科4年 リン リョウ）
潘 晔媛（経済学科3年 ハン ギョウエン）
車 丹丹（経営学科3年 シャ タンタン）
劉 春華（社会環境デザイン学科4年 リュウ ハルカ）
畢 瓚椿（環境情報学科3年 ヒツ サンチン）
満 都拉（総合政策学科3年 マンドラ）
閻 曉丹（総合政策学科2年 エン キョウダン）

平成22年度前期成績優秀者

車 丹丹（経営学科3年 シャ タンタン）
鄭 英蘭（経営学科3年 テイ エイラン）
顧 幸佳（経営学科2年 コ コウカ）
凌 青（経営学科2年 リョウ セイ）
李 蓉（環境情報学科1年 リ ヨウ）
朴 慶姫（メディアコミュニケーション学科2年 パク ギョンヒ）
杜 錚（メディアコミュニケーション学科2年 ト ソウ）
満 都拉（総合政策学科3年 マンドラ）
閻 曉丹（総合政策学科2年 エン キョウダン）



平成22年度四日市大学私費外国人留学生奨学金

11月24日（水）、四日市大学私費外国人留学生奨学金授与式が行われ、学長宗村南男先生より、下記の留学生に奨学金が手渡されました。受賞者の皆さん、おめでとうございます。

王 蕊（経済学科2年 オウ ズイ）
陳 亦敏（経済学科2年 チン イミン）
卓 蔚宁（経営学科2年 タク イネイ）
張 德誉（経営学科2年 チョウ トクヨ）
齊 鑫（環境情報学科2年 サイ シン）
張 奇（環境情報学科2年 チョウ キ）
張 博（環境情報学科2年 チョウ ハク）
ルパック シュレスタ（環境情報学科2年）
何 玉洪（総合政策学科2年 カ ギョクコウ）
舒 萍（総合政策学科2年 ジョ ヘイ）

平成22年度宗村南男奨学金授与式

12月2日（木）、宗村南男奨学金授与式が行われ、学長宗村南男先生より受賞者の経済学部経済学科3年グエン デイン ソンさんに奨学金と授与証書が手渡されました。この奨学金は、成績優秀はもちろんのこと、大学・地域社会へ大きく貢献した留学生に贈られる奨学金です。グエン デイン ソンさん、おめでとうございます。



イベント

Event



大学祭～

10月23日、私は中国の留学生として、うちの大学の大学祭に参加しました。私ははじめて大学祭に参加するので、すごく楽しかったです。大学の皆さんは様々な模擬店を作って、色々な商品を販売して、とても賑やかでした。

私は留学生の1年生として、友達や先輩と一緒に、留学生支援センターの皆さんの助けの下で中国の水餃子を販売しました。私は経済学科の学生にとって、模擬店を経営したことを通じて、自分の学んだ専門知識が実践できたと思っています。そして、多くの人々の協力と支援の下に私たちの模擬店の食品を完売しました。すごく嬉しかったです。

その際に、私は中国と違う大学生活を体験しました。それに、皆さんと仲良くなるとともに日中だけではなく多国の文化を交流することを促進したと思います。

経済学科1年 張 祖川

ディスカッションへの参加～

昨年、留学生国際交流企画による「持続可能な多文化共生を考える」ディスカッションに参加しました。私はグループディスカッションに関して、アイデアを共有してコミュニケーションするための最良の方法の一つであると思うし、それはまた問題を解決する最も簡単な方法です。グループディスカッションの中で、メンバーは、誰でも簡単に自分たちの経験やアイデアを話し合うことができます。グループディスカッションは有用なので、参加者が自分のスキルを開発できるようになります。また、複数の人が関与しているため、議論は多くのアイデアを紹介することもできます。その上、このグループディスカッションは、いくつかの外国人を含む、さまざまな文化や伝統的なことを導入することができます。私はグループディスカッションは問題を解決するための良い方法だと思います。

経営学科1年 メアス ヴィサル



言語の魅力～

2010年10月12日、私は一つの心の洗礼を受け取りました。この日、四日市大学の第七回留学生日本語弁論大会を行いました。

私には、スピーチは一つの言語の最も美しい魅力の表現の形式です。今大会の八名の参加者たちは最も美しい日本語で自分の人生観、世界観、深い思い等皆へ伝えました。昔、中国語で弁論大会を聞きました。それより、今回の大会の参加者たちの表現方式是豊かで、とても面白いと思いました。

「学長賞」を受けた閻曉丹さんの「一杯のかけそば」が悲しくて、ラマカンチャさんの「『笑点』から学んだこと」が笑顔にさせました。私は言語の表情について人生の波瀾万丈と言える、あらゆる経験をしました。

今回聴衆として言語の魅力を経験したわたしはこの不思議な世界に入っていきたい気持ちが生まれました。もしできれば参加者として、言語の魅力を進んで感じたいと思います。

経営学科2年 顧 幸佳



一杯のかけそば

東京都の最高齢男性がすでに30年前に死亡していたという事件は、みなさん、ご存知のことと思います。この事件をきっかけに、日本全国各地で高齢者の所在不明問題が広がっています。同じ家に住んでいる家族が、30年間部屋から一步も出なかった、食べものを一切取っていなかったことを知っていながら、何もせずそのまま放置していたということを、皆さんは信じられますか？私は絶対に信じられません。

わたしの出身・中国では、長寿の人がいる家族は自分の誇りとして、すごく大事にしています。なぜ日本はこういうことになってしまったのでしょうか？家族の絆、人間と人間の絆は本当に、豊かになればなるほど、どんどん消えていくのでしょうか？「一杯のかけそば」という物語を読んだことがありますか？私が読んだのはこんな話です。

大晦日の夜、ある蕎麦屋に、2人の子どもを連れた貧しそうなお母さんが現れ、親子3人でかけそばを1杯だけ注文しました。店の主人はこの親子を見てかわいそうに思い、内緒で2人分のそばを出してあげました。親子は、その1杯のかけそばを3人で分け合っておいしそうに食べました。そして、次の年の大晦日も、その次の年の大晦日も同じように、この親子はかけそばを1杯だけ注文しました。この親子は事故で父親をなくし、たくさんの借金を抱え、とても貧しい生活をしていたので、大晦日に1杯のかけそばを食べることさえ、贅沢なことでした。真冬の寒さの中で、1杯のかけそばの暖かさと蕎麦屋夫婦のおもいやりが助けになって、親子3人は貧しさを乗り越えていきました。そして蕎麦屋夫婦も、毎年大晦日にこの親子が来るのを楽しみにしていました。

しかしある年から、この親子は来なくなりました。それでも蕎麦屋夫婦は、毎年大晦日になると、この親子を待ち続けていました。

それから14年もたった大晦日の夜、あの親子が再び蕎麦屋に現れました。立派な大人になった息子2人と母親は、初めて3杯のかけそばを頼んだのです。

子どもの頃、私は涙ながらにこの物語を読みました。



簡単な内容、少ない台詞の中で、親子の絆、そして赤の他人であるはずの蕎麦屋夫婦との絆が、1杯のかけそばを通して緊密に結びついているのが感じられました。日本の国らしい、味の薄いかけそばのように、淡い感じで語られた物語に、幼いわたしは子供心に感動しました。特に親子3人が1杯のかけそばを前にして手をあわせて、一斉に「いただきます」を言うシーンを読むたびに、私は心の底から温められたような気がしました。

この物語を読んだことが強いきっかけになって、わたしは日本の文化や社会に深い興味をもつようになりました。さらに深く日本の心を学びたいと考えて、日本に留学することを決意しました。その時は、きっと今の日本社会も、あの物語に書かれたように暖かさに溢れているのだらうと思っていました。しかし日本で4年近く暮らしてわかったのは、現在の日本ではそういう暖かさがほとんど感じられないということでした。人と人の繋がり、私が思っていたよりもはるかに薄くなっていました。

現代文明と物質的な豊かさの中で、自分だけがよければいいという考えが当たり前になり、他人のことはもちろん、身内のことでも一切干渉しないという無関心な態度が、いつの間にかこの時代の主流になってし



まったのでしょうか？このような状況が続いていたら、将来の日本社会は一体どうなってしまうのでしょうか？

みなさん、一杯のかけそばの淡い香りが懐かしくありませんか？余計なものは何もありません。ふところを開きあい、家族同士から、簡単な会話から、お互いに向き合い、絆を編み直していきましょう。わたしは日本が好きです。きっとその暖かいおもいやりが、この社会に戻ると信じています。

総合政策学科 2年 閻 暁丹

クラブの紹介

Club Introduction

中国語クラブ

2010年4月に中国語クラブを立ち上げて以来、参加者は留学生、日本人学生、社会人を含めて、18人います。もっと学内で多文化国際交流を深めるため、私たちは「言葉」を通じて、人と人との間に友好関係を打ち立てる架け橋を築こうとしています。

現在、四日市大学には260人の留学生のうちの約八割が中国人であります。つまり、中国語を勉強したい方に対しては、大変良い環境だと考えられます。私たちはこの環境を生かして、留学生をはじめ、中国語クラブで皆さんに中国語を教えています。もちろん中国語だけではなく、中国の風俗習慣、文化、歌などを含めて伝えています。

私たちはすごく楽しい「言葉」の勉強をしています。人と人の出会いを大事にしています。今、あなたの参加を待っています。(毎週水曜日 16:30~17:30 に、6304 室で活動を行っています。)

経営学科 4年 王 金榮

Movie Zoo



はじめまして。四日市大学研究機構取材チームの Movie Zoo です。当チームは、日本人学生と留学生の、総勢 15 名の学生主導組織です。

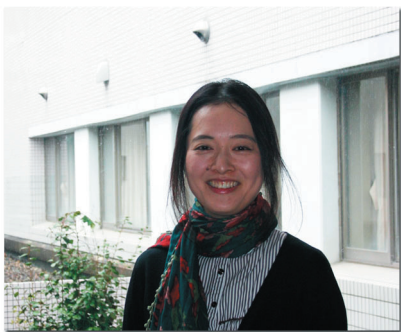
熱い四日市地域を世界に伝えるため、2010年の夏から秋にかけて、私たち Movie Zoo は 3 カ所の「四日市地域まちかど博物館」取材映像をインターネット上の Youtube にアップしました。

今年は、更に活動の幅を広げ、1枚の紙から何羽もの鶴を作り出す「桑名の連鶴」を留学生が母国の方々に伝承する企画を展開します。それら活動の様子も、動画コンテンツとして配信予定です。もし興味を持たれたら、yuro@yokkaichi-u.ac.jp までご連絡ください。

現代ビジネス学科 4年 小池 竜也



コラム Column



本年度から留学生支援委員になりました、環境情報学部の牧田直子です。留学生支援委員になって以来、留学生の皆さんが挨拶や、声を掛けてくれる機会が非常に多くなりました。皆さんが私の顔を覚えてくれたみたいで、とても嬉しく思います。ときどき白衣を着て学内を歩いているので、目立つのでしょうか……。授業は、「環境のための基礎化学」、「環境化学 a と b」、「環境分析化学・実験」と化学系の科目を担当しています。担当している授業はほとんどが1年生を対象とした科目で、環境情報学概論1では担任 (FA 担当) もしています。上級生の皆さんと接する機会があまりないのは残念です。「基礎化学 (来年度からは「化学1」)」は将来的には全学部の学生が履修できる科目になる予定です。化学は生活に役立つ学問なので、是非、勉強して下さいね。

留学生支援委員 牧田 直子

暁高校のクリスマスパーティー

12月10日暁高校のクリスマスパーティーに参加した。四日市大学から5人の留学生が参加することになった。中国(2名)、ネパール(2名)、インドネシア(1名)がそれぞれの国のクリスマス、お正月やお祭りのお祝いの仕方を発表した。私達の他にはドイツからの留学生やアメリカ出身の英語の先生も一緒に交流した。日本を含めて6カ国もあった。

それぞれの国のお祝いの仕方の発表が終わったら、ケーキをごちそうになった。すごく美味しかった。そして歌を歌ったり、ネパールの留学生も素敵な踊りも披露してくれた。

そのあとゲームもあった。楽しくて、皆盛り上がった。

世界中ではお祭りのお祝いの仕方がそれぞれだけれども共通点を感じた。それは皆家族と一緒に祝いすることだ。家族から離れている私達は家族の大切さや存在を感じる。だからこそ家族をもっと大事にしよう。最後に皆さん、Merry Christmas and Happy New Year.

経営学科研究生 Desy Natalia.



四日市市・天津友好都市30周年記念

四日市市と天津市友好都市30周年を迎えて、本当におめでたい話であります。近年以来、両市は文化、経済、環境など様々な交流を展開しています。その中で、四日市大学の先生や学生などにも積極的に両市の友好を続けていくための活動などに参加する姿が見られます。両市の架け橋になるように貢献をしています。

のど自慢の予選に出場して

私は、四日市市で行われたのど自慢の出場を目指して、中国、ネパールの留学生と5人グループで「北国の春」を歌いました。この歌は、若い日本人にはあまりなじみのない歌ですが、中国では誰もが知っている歌だそうです。全員で集まる機会は少なかったのですが、振り付けやフォーメーションなどを短時間でみっちり練習し、チームワークを深めました。

そして迎えた予選当日、1100組の応募の中から選ばれた200組が集まり、ひと組ずつ順番に歌っていきます。私たちも衣装に着替え、練習の成果を本番でも発揮しました。結果は残念でしたが、とても良い経験となりました。またこの仲間で、今度は本選に出場したいです。

最後に、留学生支援センターのみなさんをはじめ応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

四日市看護医療大学・看護学科3年 日比野 佳奈



大学祭の展示

今年、四日市市と天津市友好都市の30周年を迎えた。天津出身の私にとっては本当に嬉しい気持ちでいっぱいになった。天津のことを伝えたいという強い気持ちで暁高校学際と四日市大学祭に参加した。両都市の友好に貢献できる人になるよう精一杯努力したいと思う。

“天津三絶”を代表する食べ物を紹介するうちに、天津が恋しくなってきた。離れた生活をしたからこそ、知ることができた。人々と交流する機会の中で熱心な四日市市の市民から四日市市のことを深く学ぶことができ、歴史や生活や日本人との触れ合いなどに感動し、自分を大きく成長させることができた。本当に行ってよかったと思う。こんなに貴重な経験をしてくれるチャンスを与えてくれた先生たちに感謝している。

自分の故郷と天津市と今住んでいるそして愛着を持っている四日市市、これからの友好交流をいっそう発展させ、よりいっそうの相互理解を深めるよう心から願っている。

経営学科1年 李 彦霖

ESL 合宿

今年3月に、ESLの春休み2泊3日の短期合宿がある。コテージを借り、参加学生と教員が英語のみで共同生活することにより、生活に密着した表現・単語などを重点においている。また、普段の環境とは違う自然に囲まれた環境の中で身体を動かす内容やゲーム性のあるプログラムもある。大学でいつも行っている教科書を使った授業とは全く違う雰囲気で行うため、参加人数も多い。また、日本人学生のみではなく、留学生や看護大生の参加者もあり、様々な人とコミュニケーションをとるため、知り合いが増えるのも短期合宿の一つの特徴である。また、引率教員が企画したプログラムで進められていくので、英語が得意な人・興味がある人、興味はあるけど苦手意識がある人や普段ESLに來れない人もこの機会に参加をするのもいいだろう。宿泊費と交通費を含め、参加費は5,000円だ。手頃な価格になっているので、普段バイトや勉強など忙しい人は気分転換や春休みの思い出としてESLの短期合宿はどうだろうか。(詳しい内容はお早めにESLのホームページをご覧ください。)



メディアコミュニケーション学科2年 村木 希久子

挨拶から学ぶ文化

人と初めて会う時の挨拶は国ごとによって喋る言葉は違うが、その意味は専ら同じである。四日市大学には色々な国から来た留学生がいる。異国の友達に自分の国の言葉で挨拶された時、私はとても親しみを感じた。違う国の挨拶の仕方を勉強することもいい国際交流になるのではないかなあと考えて色々国の挨拶の言葉を調べてみた。

ヒンズー教を信じるネパール人やインド人は「ナマステ」といいながら、相手の身体の中に住む神様に感謝する。両手を集めて胸の高さにおいて首を下げることは相手の中の神様を尊敬するという意味を持つ。アメリカでは、皆が知っているように「ハロー」といいながら握手をする。アメリカの握手は西部時代カウボーイたちが鉄砲で争う時、彼らの手に武器がないことを確認することから始まって今の挨拶になったという。ミャンマーでは両腕をミイラのようにして目礼をしながら「ミンググルラバ」という。それは相手を害することはないという意味である。タイでは両手を前に集めて肘を身に付けたまま「ワイ」と言いながら首を下げる。この時合掌した手が上に上がるほど恭敬の程度が大きくなる。モンゴル人にとって、家畜は交通手段のみならず食べ物も提供してくれる大事な存在である。それで家で家畜がよく育っているのか尋ねる言葉「センベノー」があいさつの言葉になった。

メディアコミュニケーション学科2年 朴 慶姫



編集後記

「今だからこそできる」をずっと信じて、大学生活の最後までに留学生新聞の制作を続けました。この新聞を制作すると同時に、たくさんの方からご意見、ご指導、ご協力などを頂いて、本当にありがたく思います。これは、未熟な自分にとって学んだことがいっぱいでした。この感謝の気持ちをもって、人生の新しい出発にパワーを注入します。さらに、自分の方向をしっかりと把握し、前に進みます。今の別れは、再び出会いのきっかけだと考えられます。私たちの明日は晴れますように～。

今後も留学生新聞を支えて続けてください。私たちは皆さんの力がが必要です。どうかよろしくお願ひします。

留学生新聞編集長 王 金栄